

## 令和2年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	子育て世代の生きる力を育み地域防災力を高める 「自然共生型子どもサバイバルキャンプ」事業
事業主体 (連絡先)	そらしど森のようちえん 代表 伊藤美穂子
事業区分	(4) 地域防災力を高める
事業タイプ	ソフト
総事業費	664,447 円 (うち支援金: 517,000 円)

### 事業内容

・11月7日(土)、※11月21日(土) (※新型コロナウイルス感染拡大に伴い開催を見合わせる)

(1) 防災・自然保育ワークショップ  
<災害シミュレーションキャンプ>

災害発生後にできることを体験(屋外実施)

- ・マッチ三本での火起こしと薪ストーブでの炊き出し
- ・biolite を使用しての焚き火で発電体験
- ・ポリラップでの炊飯体験
- ・牛乳パックで食事体験 など

(2) 普及啓発活動

災害発生前に備えられることを考える(屋内実施)

- ・南海トラフ、糸魚川静岡構造線災害予測の映像
- ・茅野市防災課の協力により自助・共助・公助を学ぶ
- ・災害時持ち出し用品の展示

### 事業効果

- ① 映像を活用し自分たちの住む地域の災害発生リスクが高いということを実感することができた。
- ② 災害発生時の暮らしの中でシェルター・火・水・食糧・トイレ・電気の確保の仕方などを親子で体験することができた。
- ③ 茅野市、岡谷市、諏訪市、北杜市から9組の親子の申し込みがあり、2歳児親子から年中児親子までが参加した。
- ④ 災害シミュレーションキャンプの実施後、家庭に戻り家の庭で使える薪ストーブを購入し、火起こしの練習を始めたという参加者もいた。災害に備えることの大切さをイベントから日常へ広がりを見せた。

### 今後の取り組み

災害発生リスクが高いことをより一層自覚し、主に子育て世代に向けた自然共生型災害シミュレーションキャンプを継続していきたい。  
普段、火起こしやシェルター作りなど体験する機会が少ない小学生などに向けた自然共生型シミュレーションキャンプを開催し、災害に備える活動を広めていきたい。



【キャンプの様子】

### 【目標・ねらい】

- ① 自分の住む町の災害史と災害発生リスクを知る
- ② 我が家の避難場所、避難時の心得を知る
- ③ 災害発生前と後を想定し災害シミュレーションキャンプで災害への備えを体験的に学ぶ

※自己評価 【 A 】

### 【理由】

・子育て世代が、自分たちの住む地域の災害の現状や、災害発生の可能性を学び危機感を持つことが第一歩だと再確認しました。  
・今回のように体験的に災害に備える機会を100%の方が必要だと感じると回答。